

今月の逸品

NO.07 2015.10



実用植物図 第二十～第二十五

外寸：550 mm × 510 mm

本紙：151 mm × 215 mm (6枚)

実用作物を示した掛図。緑色の紙で覆ったコルク状のボードに6枚の図を貼り、右端に紐を取り付けて掛図に仕立てている。貼られた図の年代などは不明だが、京都教育大学が所蔵する他の生物教育掛図が、いずれも明治30年代に掛図に仕立てられたものであることを考えると、そのころに出版されたものだろう。図には、第二十から第二十五までの番号が付されている。第十九までの図に何が描かれていたかは不明だが、少なくとも、当時の採油用、染色用、嗜好品などの実用植物の代表的な種類を知ることができる。図は薄く着色され、第二十三(右下)には桑畑、第二十五(左下)にはコルク層を剥いている様子も描かれている。第二十三にはチャとコーヒーの木がみえるので嗜好飲料の図と思われる、同じ図に描かれる桑も、養蚕の他に桑茶として用いられたのかもしれない。第二十五には、今はあまり使われない工芸材料としてのタケ、コルクやい草の材料植物が描かれている。実用作物の図を教育掛図にしている点からは、自然を生活の共同体と捉えようとする当時の生物教育のあり方がうかがうことができる。



(左下)：第二十五 各種用植物
一 こるくのき
二 苦竹(まだけ)
三 燈心草(とうしんぐさ)